

# 令和7年度 病害虫防除情報

令和8年3月12日  
発表：福島県病害虫防除所

**トマトキバガの発生が促成栽培で確認されています！  
被害の発生に注意し、早期発見・早期防除に努めましょう。**

- 1 対象作物：トマト、ミニトマト
- 2 害虫名：トマトキバガ
- 3 対象地域：全域

## 【発生状況】

- (1) 令和8年2月下旬に中通り地方の促成トマト栽培施設において、トマトキバガ成虫の発生が確認されており、冬期間でも本種が発生しています（写真1）。
- (2) 令和8年2月から、浜通り地方の促成トマト栽培ほ場付近の野外2地点に設置しているフェロモントラップでは、3月4日時点で誘殺は確認されていません。

## 【形態と被害】

- (1) 成虫は、翅を閉じた静止時で体長約5～7mm、前翅は灰褐色の地色に黒褐色が散在します。後翅は一律に淡黒褐色です（写真2）。
- (2) 幼虫は、終齢で約8mm、体色は淡緑色～淡赤色で、頭部は淡褐色をしています。前胸の背面後方に細い黒色横帯があります（写真3）。
- (3) トマトの茎葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害は、表皮のみ残して薄皮状になり白変～褐変します。本種の葉の食害は面状であり（写真4）、ハモグリバエ類の線状の被害とは区別ができます（写真5）。果実では、表面に数mm程度の穴を開けて幼虫が侵入します（写真6）。

## 【防除対策】

- (1) 育苗期・定植時の対策
  - ア 施設開口部すべてに防虫ネット（目合い0.8mm以下）を設置し、成虫の侵入を防ぎましょう。
  - イ 育苗期間中から本種による被害に注意し、被害を確認したら、速やかに被害葉を摘み取りビニール袋などに入れ、一定期間密閉（蒸し込み）し、寄生した成幼虫を完全に死滅させるか、土中に深く埋没する等の方法で適切に処分しましょう。
  - ウ 被害が確認された際には、直ちに薬剤防除を行い、定植時にはかん注剤により防除を実施してください（参考：表1）。
  - エ 定植時には苗からの持ち込みを防ぐため、本種による被害や寄生がないか確認したうえで定植しましょう。
- (2) 栽培期間中の対策
  - ア ほ場をよく観察し、被害葉や被害果の早期発見に努めましょう。
  - イ 被害葉や被害果は、幼虫が寄生している可能性が高いため、摘み取って適切に処分しましょう。
  - ウ 本種の寄生及び被害が確認された場合は、直ちに薬剤防除を実施してください。
  - エ トマトキバガの薬剤散布に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統が異なる薬剤のローテーション散布を行いましょう（農林水産省「農薬登録情報システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>）（参考：表2）。

### (3) 栽培終了後の対策

- ア 栽培終了後の植物体は本種の発生源及び増殖源となるため、速やかに枯死させましょう。キルパー処理による古株枯死を行うことで、速やかに植物体を枯らし、トマトキバガの発生源を無くすことが可能です。
- イ 残さはビニール袋等に入れ、一定期間密閉し、寄生した幼虫、蛹、成虫を完全に死滅させるか、土中に深く埋没する等の方法で適切に処分しましょう。
- ウ 冬期間はハウスの被覆を剥がし、寒気にさらし、ハウス内での越冬を防ぎましょう。ハウスの被覆を剥がすことが難しい場合には、できるだけ開口部を開け、露地条件に近づけましょう。
- エ 冬期間に他品目を作付する場合は、ハウス内の雑草防除に努めましょう。ナス科雑草や野良生えのトマトは、本種の増殖源になり得るため、見つけ次第抜き取り処分しましょう。



写真1 ビニール被覆内に生息するトマトキバガ成虫



写真2 葉に寄生するトマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ幼虫

トマトキバガの面状の食害



写真4 トマトキバガ幼虫による被害葉

ハモグリバエ類の線状の食害



写真5 ハモグリバエ類幼虫による被害葉

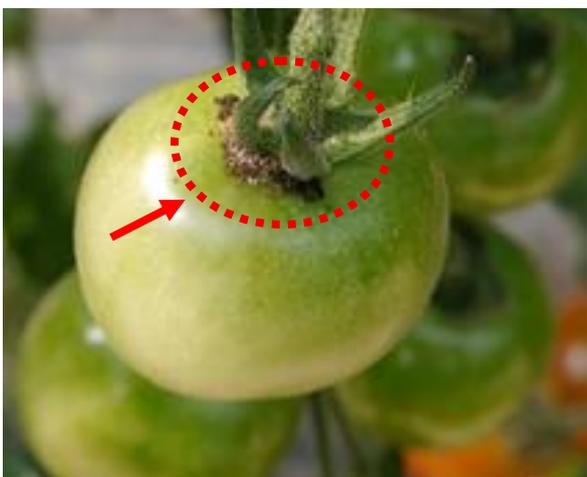


写真6 トマトキバガ幼虫による被害果

表1 トマト、ミニトマトでトマトキバガに対して登録のある農薬（灌注剤）（令和8年3月5日現在）

IRAC コード	農薬名	使用方法	使用量	希釈水量	本剤の 使用回数	使用時期
28	ベリマークSC	灌注	400株当たり 25ml	400株当たり10～20L (1株当たり25～50ml)	1回	育苗期後半～ 定植当日

※令和7年度農作物病虫害防除指針では、ベリマークSCの希釈倍数を薬量、希釈水量より希釈倍数を400～800倍と計算し記載してあります。

※トマトのアブラムシ類防除として、同一の用法用量で記載があります。

表2 トマト、ミニトマトでトマトキバガに対して登録のある農薬（茎葉散布）  
（令和8年3月5日現在）

IRAC コード	農薬名	使用方法	希釈倍数	本剤の 使用回数	使用時期
5	ディアナSC	散布	2,500～5,000倍	2回以内	収穫前日まで
6	アフアーム乳剤	散布	2,000倍	5回以内	収穫前日まで
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	1,000倍	—	発生初期（但し、 収穫前日まで）
11A	チューンアップ顆粒水和剤	散布	2,000倍	—	発生初期（但し、 収穫前日まで）
11A	エスマルクDF	散布	1,000倍	—	発生初期（但し、 収穫前日まで）
13	コテツフロアブル	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで
22B	アクセルフロアブル	散布	1,000倍	3回以内	収穫前日まで
28	プレバゾンフロアブル5	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで
28	ベネビアOD	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで
30	グレーシア乳剤	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで
UN	プレオフロアブル	散布	1,000倍	2回以内	収穫前日まで

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727